

- (2)電子ビーム溶接におけるプラズマ
- (3)チタンのプラズマ溶解に関する基礎的検討
- (4)DC アーク炉における黒鉛中空電極を用いたダスト処理プロセスの開発

鉄鋼基礎共同研究会

・第 5 回変形特性の予測と制御部会

開催日：11 月 6 日

出席者：吉永部会長，ほか 22 名。

1. 各 WG の活動計画の報告
2. データベースのデータ収集について

3. 共同研究用試料について
4. 話題提供

- 1) 鋼の等温変態線図のコンピュータシミュレーション（豊橋技科大・梅本）
- 2) 連続冷却された低炭素-低合金鋼のベイナイト下部組織と強度，靱性の関係（神鋼・勝亦）
5. 次年度の活動計画

21 世紀の鉄鋼業（西山記念技術講座） 開催報告

“21 世紀の鉄鋼業”をテーマとして平成 2 年 11 月 7 日（水），8 日（木）の 2 日間東京都港区芝の建築会館ホールで開催された。

第 1 日の講演は 3 題であった。

科学技術の進展と鉄鋼業（村上陽一郎・東大教授）
社会環境の進展と鉄鋼業（吉田春樹・興銀産業調査部長）
鉄鋼業から見た 21 世紀の製鉄環境

（中島一郎・通産省製鉄課長）

第 2 日目の講演は 5 題が行われた。

鉄の技術の歴史的展望（飯田賢一・東京工科大教授）
21 世紀における鉄鋼材料（中澤 吉・新日鉄取締役）
これからの鉄製錬技術（今井卓雄・川鉄取締役）
これからの鉄鋼材料プロセッシング
（宮脇芳治・NKK 取締役）

夢の次世代鉄鋼技術（徳田昌則・東北大教授）

特に第 1 日目の 15:00 から 17:00 まで，“ヒューマンフレンドリーなスチールテクノロジーを指して”をテーマとし，三田村外喜男（新日鉄取締役）司会のもと，21 世紀に向けて鉄の技術者，研究者，更にはこれから鉄を目指す若い世代に夢と目指すべき方向と課題を主眼としたパネルディスカッションが行われた。

パネラーは「人と自然に優しい 21 世紀の鉄鋼プロセス」を視点とし京極哲朗（住金取締役），「快適で豊かな生活を可能とする 21 世紀の鉄鋼商品」を視点とし副島利行（神鋼取締役），「全産業的視野からみた鉄鋼業の目指すべき方向と課題」中島一郎，「21 世紀の新しい文化と鉄鋼材料」村上陽一郎，「社会環境から見た鉄鋼業の 21 世紀の役割」吉田春樹，および「鉄鋼技術史の語る 21 世紀への期待」を視点として飯田賢一各講師より独自の考えがのべられた。参加者は 2 日間とも 440 名のほり，テキストも完売となった。

訂 正

解説「回転電極法によるチタン合金粉末の製造」（鉄と鋼，76（1990）12，p. 2108）p. 2111 本文右欄上から 15, 16 行目に誤りがございましたので，次のとおり訂正させていただきます。

（誤）	（正）
溶解条件のパラメーターを ……………(15 行目)	液体金属のパラメーターを……………
液体金属のパラメーターを ……………(16 行目)	溶解条件のパラメーターを……………